



Ho! ManaBU しんぶん

子どもの笑顔に会うために！

2010.12.31 No.25

プロジェクト
対象13県



どんなワークショップだったのかな？

～2年目のワークショップの様子を「会話形式」で～

11月22日の北ショア県対象のHo! ManaBU プロジェクトワークショップ（以下：ワークショップ）を皮切りに、12月8日まで、3つのチームに分かれて実施しました。10ヶ所の研修の参加者の総数392名で、その出席率はなんと98.9%！そんなワークショップの様子を、今年も3人の会話形式で紹介します。

（Fira：野邊・Hawi：五十嵐・Bashadu：廣瀬）

F: お疲れ様でした。今年も、無事ワークショップを終えて、ホッとしたところですが、どうでしたか？

H: 昨年のワークショップの4日間(1ヶ所)に比べて、今年は2日間と短かったので、最初は楽かなと思っていましたが、ふたを開けてみれば盛りだくさんの内容で、その上、アンケート記入なども多かったので、限られた時間内でいかに各セッションに変化を持たせて、まとめていくか結構苦労しました。また、私の場合は、最も遠隔地かつ最も参加者の多いギンビ市、ナカムテ市でのグループを連続しての担当だったので、アジスアベバで荷物を積み込む時も、研修用具や配布物の忘れ物をしないように、二度三度の点検。研修中も、時間管理や必要書類の配布や回収の徹底に気が抜けませんでした。TOTのぎりぎりまで準備していて、自分の中で余裕がなかったことも、大きな反省材料でした。

B: 着任早々、ワークショップを任せられるというのは非常にプレッシャーで、どうなるのか本当に心配していましたが、全体を通して、とても楽しく、私自身多くのことを学ぶことができるワークショップでした。まず驚いたのは、研修参加者の真面目さです。前回のManaBUプロジェクトでも、エチオピア人の真面目さには感心していたのですが、今回のワークショップではさらに、参加者の熱意、学校を改善したいという意欲を強く感じました。

F: そうだね。バシャドゥが赴任したのは11月3日で、22日にはワークショップだから、その間19日しかなかったんだね。けど、楽しかったと感じることができてよかったです。ハワイの今年のワーク

ショップは、フィジカル面でも大変だったけど、一緒に組んだスタッフの育成(?)もあり、本当に大変だったと思います。ありがとうございました。去年は、我々日本人専門家が前面に出て、進行役も務めました。今年も「なるべく、プロジェクトスタッフと県教育事務所(ZEO)の担当者に任せる」方法を取り、私としては「来年度はZEO担当者を中心に進行できる」という感触を得ることができたかな！



進行役をアシストするZEO担当者たち

B: 私自身は、これまでHo! ManaBU しんぶんの一読者であり、しんぶんを通して、Ho! ManaBU 研修(HM研修)のおもしろさや、学校レベルで行われている好事例を認識しているつもりでしたが、正直、しんぶんだけでは、HM研修がどこまで対象地域全体に浸透しているのかイメージできていませんでした。ところが、今回のワークショップを通し、HM研修の実施で、本当に現場レベルで成果が上がっていることを肌で感じることができました。

H: 昨年もワークショップの出席率はとても高かった(93.5%)けど、今回はそれを上回る出席率でした。特に、州内全域で始まったGEQIP(教育の質向上のためのプログラム)の現職教員研修スケジュールとモロにぶつかってしまい、しかも参加予定者も完全に重なっていたことを考えると、98.9%という出席率は驚異的ですよ。これは、もしかすると、「Ho! ManaBUのワークショップは面白い」ということが口コミで伝わっているのではないかなと思うのですが、どう思います？



西アルシ県の研修終了記念撮影！ZEO担当者(中央)とファシリテーター認定書を授与された研修参加者の面々。

*Ho! はオロモ語でHoggansa (運営)の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎)の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

F: 確かに！ そもそも、ワークショップの会場などのアレンジに行ったスタッフから「最近の物価高騰により、規定の日当では足りないということで、ユニセフやGEQIPなどは規定の2.1~2.3倍を支払っている。規定通りの日当だと参加者は来ない！」と報告を受けていて…。結局、オロミア州教育局(OEB)と協議して規定の1.7倍を支払うことにしたけど…。その情報を各ZEOや郡・特別市の教育事務所(WEO・STEO)に流す前にワークショップが始まったので、参加者が少ないかと心配してたんだよね。けど、ふたを開けたら98.9%！ハウイが言うように「面白いから行こう！」が浸透してる証拠でしょ。ちなみに、新規規定で日当を払ったら「間違ってる(規定より多いよ)」とお金を返そうとした参加者が2つの会場にいて、びっくりしたけどね。

H: 西ワレガとケラム・ワレガ県のグループは、相変わらずのまじめさで昨年同様研修初日でも開始予定の30分前にはほぼ全員登録を済ませていました。実際、遠方からの参加者は前日にすでにギンビ市に来ていて、「ハウイ、お帰り！」と路上で声をかけてくれる参加者がいて、嬉し涙が…。ギンビ市は今や我が心のふるさとです(笑)。西アルシ県での研修では、「徒歩・馬車・バスを乗りついで、片道3日かけて参加したグループ」「ワークショップの後、学校に戻って夜中まで中学校進学国家試験の受験登録の残業をする特別市の教員」「昨年度の研修風景を記録したアルバムを誇らしげに見せてくれたCRC担当官や同中心校の校長」などがとても印象に残っています。

B: 西ショア県のワークショップ2日目、参加者にファシリテーター認定書を配り終えた後のことでした。いきなり、一人の参加者(セバタSTEO担当者)が立ち上がり、「今度は、私たちの方から、これまでプロジェクトが私たちにしてくれた活動に対して、感謝の気持ちを込めてプレゼントをしたいと思います」と言われ、とても素敵な額に入った賞状と盾をいただきました。私は、まだ着任して早々ですが、学校やCRC(クラス・リス・セター)に感謝されていることに感動し、思わず涙が出そうになりました。これからも、多くの学校やCRCから感謝してもらえるようなプロジェクト活動を行っていききたいなと強く思いました。



F: いやー、いい話がありすぎてキリがないね！けど、問題点というか、課題も浮き彫りになったよね。例えば、人事異動とか…。昨年のワークショップを受講して、今年のワークショップに2年連続して参加したZEO担当者は、わずか23.1%(76.9%が異動)。同じく2年連続して参加したWEO/STEO行政官・CRC担当官・中心校の校長/主任の割合も52.3%と、予想以上に低かったし…。

H: 人事異動はエチオピア名物と言ってもいいぐらいですが…。13県の平均は52.3%。最高はケラムワレガ県の77%、最低はジンマ県の31%で、8名のCRC担当官は全員が初参加でした。JICAプロジェクトでは、人事異動を外部条件として位置づけることもありますが、エチオピアのような国でプロジェクトを展開する際、人事異動は当たり前、つまり前提条件として支援戦略を考えるべきかなと思います。他プロジェクトの知見もぜひ共有頂きたいですね。

B: 確かに、難しい課題ですね。と言ってる間にすでに1ページ半！とりあえず今回はこの辺りでやめて、ワークショップの内容は、また次号にしましょう！

お疲れさま。そしてありがとう！

～ダレジェ前OEB局長の今後は～

Ho! ManaBU プロジェクトを語る際に、絶対に外すことのできないダレジェ前局長が離任したのは10月。次のポジションについては、オロミア州大統領、留学して博士課程取得など諸説ありましたが、どこかの大使になることが決まり、大使になるための研修を受け、いよいよこの国の大使になるか決定する日がやってきました。「在日本大使になりたいから、フィラも一緒に祈ってくれ！」というダレジェさんの願いは叶わず、在インド国エチオピア大使として赴任することが決まりました。インドは、エチオピアにとって重要な国で、在中国大使の次のポジションということですし、前任の在インド大使は元連邦教育省大臣で、ダレジェさんへの期待の高さが理解できます。1月にはインドへ赴任予定です。長年にわたるOEBでの重責、お疲れ様でした。そして、Ho! ManaBUに対する愛情ありがとうございました。これからの益々の活躍を期待しています。



ガラトーマ！
オボ・ダレジェ！

大田 JICA 所長から花束を受け取るダレジェ前局長。ダレジェ前局長の後の女性はダレジェさんの愛妻。